

上映会『失われた時の中で』 ベトナム戦争の傷跡は今も続く —なぜ罪のない市民が苦しめられるのか—

ベトナム戦争は、南北に分断されたベトナムを巡り、社会主義の北ベトナム（ソ連・中国支援）や南のベトナム解放戦線（ベトコン）と反共の南ベトナム（アメリカ・韓国など支援）が対立し、冷戦下のアメリカが本格介入した1960年代～1975年の戦争で、米軍撤退とサイゴン陥落（統一）で終結しました。アメリカは「ドミノ理論」を背景に介入し、北爆を繰り返し、また枯葉剤使用などで地域住民を苦しめたのでした。森林を枯葉剤によって枯らすことによって敵の兵士を見つけやすくするためでした。

ベトナム戦争で使われた枯葉剤は、主にエージェント・オレンジ（オレンジ剤）と呼ばれ、強力な毒性を持つダイオキシン（TCDD）を多量に含んでおり、ベトナムの森林破壊と、多くの人々（兵士・民間人）にガン、先天性異常、神経障害などの深刻な健康被害を引き起こしました。ベトナム戦争中に米軍が散布した枯葉剤の影響とみられ、下半身がつながった状態で生まれた結合双生児の兄弟の（グエン・ベトさんとグエン・ドクさん）は知られていますが、米軍の兵士にも被害が及んでいます。

ドキュメンタリー映画監督の坂田雅子さんの夫で写真家のグレッグ・デイビスさんもベトナム戦争で枯葉剤の影響が疑われる病気で亡くなりました。夫の死後、坂田監督は枯葉剤被害をテーマにした映画製作を決意し、20年以上にわたり被害者の取材を続け、ドキュメンタリー映画を制作しています。小さな〈いのち〉が今なお苛まれています。ETV特集で『枯葉剤の傷痕を見つめて～ベトナム戦争終結から』が放映されましたが、50年以上も経っている今も戦争の傷跡が残されているのです。戦争は長くいつまでも市民を苦しめます。

そこで、「失われた時の中で」※を上映した上で再びベトナムに訪れて取材されてきた実態を坂田雅子さんにお話いただき、エージェント・オレンジ（オレンジ剤）については科学ジャーナリストの天笠啓祐さんに話していただきます。是非とも沢山の方に視ていただけたら幸いです。

記

日時：2026年3月26日（木）午後13時30分～16時30分 開場13時

テーマ：ベトナム戦争の傷跡は今も続く、なぜ罪のない市民が苦しめられるのか

映画上映・坂田雅子さん製作『失われた時の中で』

講演：ダイオキシン被害と世代を超える影響・天笠啓祐さん 科学ジャーナリスト

司会：島蘭進さん 東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授

トークイベント：坂田雅子さん（監督）×天笠啓祐さん

チケット代1000円（資料含む）

場所：東京ボランティア市民活動センター会議室AB

東京都新宿区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ10階

JR総武線・東京メトロ副都心線 飯田橋駅下車すぐ 飯田橋駅西口を出たら右。

駅に寄り添うようにして建つ20階建てのビルが「セントラルプラザ」

有楽町線・東西線・南北線・大江戸線の場合「B2b」出口よりセントラルプラザ1階に直結

問い合わせ：携帯番号 090-2669-0413 神野玲子

E-mail jreikochan@yahoo.co.jp

主催：ゲノム問題検討会議（<https://www.gnomeke06.net/>）

共催：DNA問題研究会（<https://dnamondaiken.wixsite.com/mysite-3>）

※ <https://eiga.com/movie/97208/>

<https://eiga.com/movie/97208/video/>